

平成22年10月27日

平成22年

第10回教育委員会定例会会議録

大田区役所 教育委員会室

平成22年第10回教育委員会定例会会議録

平成 22 年 10 月 27 日午後 2 時大田区教育委員会定例会を開催した。

1 出席委員

櫻井光政	委員	委員長
野口和矩	委員	委員長職務代理者
横川敏男	委員	
藤崎雄三	委員	
鈴木清子	委員	
清水繁	委員	教育長

計 6 名

2 出席した職員

教育総務部長	金子 武 史
教育地域力・スポーツ振興担当部長	佐藤 一 義
教育総務課長	松本 秀 男
施設担当課長	西野 正 成
教育事務改善担当課長	福本 英 也
学務課長（私学行政担当課長兼務）	菅 三 男
校外施設整備担当課長	星 光 吉
指導課長（教育センター所長兼務、 幼児教育センター所長兼務）	小黒 仁 史
社会教育課長	榎田 隆 一
大田図書館長	原 聡

計 10 名

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条及び大田区教育委員会会議規則第 3 条により、第 10 回大田区教育委員会定例会を招集した者は、次のとおりである。

委員長 櫻井光政

○委員長

ただいまから、平成22年第10回教育委員会定例会を開催する。

これより審議に入る。本日の出席委員数は定足数を満たしている。よって会議は成立している。

会議録署名委員に藤崎委員を指名する。

10月14日付けで鈴木委員が新たに区長から任命を受けたので、紹介する。鈴木委員は法務省人権擁護委員及び大田区青少年対策羽田地区委員会会長をされている。

鈴木委員から、あいさつをいただきたい。

○鈴木委員

10月14日から重い役目を頂戴し、気持ちを引き締めている。これからは、今まで培ってきたものをできるだけ皆さんに還元していくつもりで、大田区の教育について一生懸命勉強しながら、また皆様に指導をいただきながら、邁進していきたいと思う。どうぞよろしく願います。

○委員長

新しい委員を迎え、新たな気持ちで大田区の教育をレベルアップしていきたいと思う。委員の議席だが、今後はこの席でよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

それでは、この議席で願います。

日程第1 「教育長の報告事項」

○委員長

教育長から報告を求める。

○教育長

資料1) 授業研究する学校ほど高水準(2010年10月26日 内外教育 10~11ページ)

資料2) 未来を担う子どもたちを育てます(平成21年3月 大田区10か年基本計画 大田未来プラン10年 50ページ)、平成21年度大田区体力調査実施報告書(第50集、16ページ)、向上の傾向が全般に鮮明(2010年10月19日 内外教育 10~11ページ)

1 授業研究の取組と学校の教育力の関係

資料1は、国立教育政策研究所が授業研究などの取組と学校の教育力の関係を調べた「校内研究等の実施状況に関する調査」の結果である。教育関係者の間には、

経験的に授業研究などの取組と学校の教育力とは相関関係にあるという考え方があった。この調査結果により、校内研究や授業研究などに取り組んでいる学校ほど、授業の水準や子どもの学力などが高いことが分かった。校内研究に積極的に取り組んでいる学校は、そうでない学校に比べて教育力が高いことは周知だったが、実証的に裏づけられた。

この調査の結果、次のような結論が得られた。

【小学校】

- (1) 研究授業の指導案を校長などが指導している学校ほど、教員間のコミュニケーションが良好で、授業の水準が高く、学力も地域や全国の平均より高い。
- (2) 指導主事訪問の際に研究授業を公開している学校ほど、授業の水準が高い。
- (3) 研究授業の参観時を写真に撮っている学校ほど、教員間のコミュニケーションが良好で、授業水準も高い。
- (4) 外部講師を招聘している学校ほど、学力が地域の平均より高い。

【中学校】

- (1) 全教員が研究授業を行うことにしている学校ほど、教員間のコミュニケーションが良好である。
- (2) 研究授業の指導案を教科会などで事前に検討している学校ほど、教員間のコミュニケーションが良好であり、授業の水準が高く、学力も全国平均より高い。
- (3) 研究授業の際に生徒を下校させず自習にしている学校ほど、教員間のコミュニケーションが良好で、授業の水準が高く、学力も全国平均より高い。
- (4) 外部講師を招へいしている学校ほど、全国平均よりも学力が高い。

まとめとして、小学校では、校内研究における校長や指導主事の指導など、個々の教員の力量を高めることが、教育の質の向上につながっている。一方、中学校では教科会などでの指導案の事前検討といった、教員全体による組織的な取り組みの充実が、教員力アップにつながっているという結果になっている。

10月と11月は、大田区教育委員会の教育推進校の発表が続々と行われていて、大田区の教育研究も盛んであるが、今後も校内でのコミュニケーションを活発にして、よい授業ができるような体制をつくっていくためには、このような授業研究に職員が一体となって取り組むことが有効であるとの調査結果も出ているので、教育委員会としてはこの考え方で推進していきたいと思っている。

2 2009年度「体力・運動能力調査」の結果について

文部科学省の2009年度「体力・運動能力調査」の結果（資料2）について、簡単に報告してから当区の現状について説明する。

大田区は、昨年来、教育振興プログラムにおいて体力向上を掲げている。体力向上については、実際に馬込小学校などでモデル校として研究に着手しており、一定程度の成果も上がっていると聞いているが、国全体の動向はどうかといったことがここに書いてある。

文部科学省が公表した2009年度の「体力・運動能力調査」結果には、主なテスト項

目の年次比較で、50m走、持久走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、ハンドボール投げ、握力等が書いてある。50m走の11歳男子は1985年が8.75秒、2009年が8.90秒、11歳女子は1985年が9.00秒、2009年が9.23秒となっている。1985年に比べると、まだまだ数値は伸びているというわけではないが、最近、少しずつ改善が見え始めている。その中で小・中学校の立ち幅跳びが前年度を下回っており、「体の動かし方が上手ではない」という課題も浮上したということだ。全体的にピークの1985年度と比べると、子どもの基礎的な運動能力は1998年度近辺で大底を打った後、この3年間、緩やかではあるが、おおむね向上が持続していると総括的に言えるが、85年度と比べると、向上した種目は全年齢で一つもないということである。

この事態を改善するためには、子どもが体を動かしたり、運動したりすることを小さいころから習慣化する必要があるが、放課後や土曜日、長期休暇等の機会をとらえて、家庭や地域が学校だけに頼らずにサポートする必要がある。

また、記事には、遊びの重要性を母親は認識しており、運動能力と遊びの相関関係を理解していて、積極的に遊ばせたいと考えているが、自分の子供のころと比べ、「遊ぶ場所」「遊ぶ時間」「たくさんの仲間と遊ぶ」といった遊べる環境が欠けていると思っている母親が60%前後もいて、この辺が課題だと紹介されている。

運動能力の向上については、学校で積極的にやることもさることながら、学校支援地域本部を立ち上げて、地域の方たちに子どもたちの安全性を確保しながら、地域の中で運動の機会を、見守り等の方法を通して、つくっていただくとか、地域の公園その他、道路などを活用できれば、活用して、できるだけ体を動かす機会をつくり出していくということが大事ではないかと思っている。

次に、大田区の現状はどうなのかであるが、大田未来プラン10年に「10年後のめざす姿」ということで、学力（大田区学習効果測定）、不登校生徒の出現率、体力調査といった三つの指標を掲げている。その中の体力調査は50m走の小6男女において、現状の男子8.96秒を平成25年度には男子8.91秒に、女子9.24秒を女子9.19秒にすることを目標にしている。平成21年度の結果は、平均値で男子8.90秒・女子9.18秒なので平成25年度の目標はとりあえずこの段階で達成している。今年度のデータがどうなるかわからないし、学年によって若干、変動があるので予断を許さないが、向上の兆しは出ていると感じている。

大田区の児童の総括的な現状であるが、東京都と比較すると、小学校1年生と小学校6年生は、都の平均とほぼ同じであるが、その他の学年は半分以上の種目で東京都の平均を下回っている。全国平均と比較するとほとんどの種目で下回っていて、中学校では全種目下回っているので、まだまだこれからしっかりと体力向上については取り組んでいかないといけないと思う。

○委員長

ただいまの教育長の報告に、意見、質問はあるか。

○野口委員

体力は向上しているようなので、これからも継続して取り組んでいくことが大事だと

思う。

先日、私は、池上第二小学校の研究授業を観に行き、子どもたちの動きで、とても感心したことがあったので、紹介する。教員が子どもたちに「本を読みなさい。」「意見を言いなさい。」と言ったときに、子どもたちは起立して必ず椅子を机の中に入れてから本を読んだり、意見を言ったりしていた。教員に尋ねたところ、学校全体でそういうしつけをしているということだった。研究授業に取り組み、それを公開する中で、しつけについてもきちんとしていると感じた。教員も頑張っているという印象を受けた。

教育長の話にあったように、研究授業は大田区全体の教育の向上につながるので、是非、力を入れていきたいと思う。

○委員長

ほかに意見、質問はあるか。

(「なし」との声あり)

○委員長

それでは、承認してよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

承認する。

日程第1 「部課長の報告事項」

○委員長

部課長の報告を求める。

○社会教育課長

(資料) 第27回大田区区民スポーツまつり参加者集計表 (平成22年度)

10月11日の体育の日に区内45会場で開催された区民スポーツまつりの実施結果について、報告する。

今年の参加者数は、13,078人であった。昨年が13,901人だったので、約800人少なくなった。なお、資料下段の6会場は地域会場ということで、10月3日と10月17日に区民スポーツまつりの一環で開催されている。11日の体育の日のみの参加者数は、今年は8,133人で、昨年が8,628人だったので、約500人少なくなっている。委員の方々にも、午前中に何会場か視察していただいたが、来場者の多い会場、少ない会場があった。実施している種目や内容によってやむを得ない面もあるが、4月のガーデンパーティの参加者数約5万人と比較すると、少ないと思う。天気や体育の日が三連休の最終日にあた

ったためとも考えている。平成24年度には総合体育館も完成するので、区民スポーツま
つりのあり方について、今後、検討していきたいと考えている。

○委員長

ただいまの報告に、意見、質問はあるか。

○鈴木委員

私は、スポーツまつりに直接かかわった。ここ数年、感じていることをお話したい。
スポーツまつりには、体育指導員や青少年対策委員が手伝いに入っている。それぞれ家
庭の用事等をおさえて尽力いただいているので、できるだけ効率的なものであってほし
いと思う。先程、社会教育課長からも検討していきたいという話があったが、これから
大田区総合体育館ができるので、それに向けてしっかり考えていただきたいと思う。

○委員長

ほかに意見はあるか。

(「なし」との声あり)

○委員長

では、承認してよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

それでは、承認する。

日程第1 「議案審議」

○委員長

議案は第33号議案について、事務局からの説明を求める。

○教育総務課長

第33号議案 学校事故に係る損害賠償額の専決処分の報告について説明する。
内容は、大森東中学校のソフトボール飛球に伴う自動車損傷事故報告である。

1 事故の概要

本年6月7日午後2時40分頃、大森東中学校の選択体育授業中に生徒が打ったボ
ールがフェンスを越え、バス通りで信号待ちをしていたミニバンの屋根に当たり、
破損をさせた。

2 学校の対応

被害者が学校に来校し、副校長以下3名で現場に向かい、被害状況の確認を行っ

た。被害者の車の運転席側の屋根に凹みを確認し、被害者に謝罪し、今後の手続について説明を行った。

3 事故後の事務処理

被害者に対して、車の修理代として102,282円を損害賠償した。学校においては、練習方法の見直しを検討し、飛球防止に努めることとした。

4 経緯

資料に記載のとおり。

この102,282円を損害賠償し、専決処分で賠償費の支払いを行った。提案理由にあるが、本件については、地方自治法第180条に基づき、区議会への報告を行うことになっている。予定では、第4回定例会で報告をしたいと考えている。

○委員長

ただいまの説明に対して、意見、質問はあるか。

○野口委員

こういう議案は、委員になって初めてのようと思うが、前例はあるか。

○教育総務課長

これまでも同様の事例があったが、報告をしていなかったようだ。きちんと議案として提出し、報告をするようにした。

○野口委員

結構、あちらこちらの学校で起こりうることではないかと思う。最近、報告が少なくなったように感じているので、良いことも悪いことも報告するようにお願いします。

○委員長

これは場外ホームランということなのか。きちんとした指導のもとで行われていて起きてしまったのか、それとも自由放任で適宜練習をさせていて起きてしまったのか。管理監督がどうなのかというところに大変、関心があるがいかがか。

○教育総務課長

選択授業中で、教員はいたということだ。フェンスの高さが10mある。今、一番高いところで15mくらいの学校もあるが、この学校のフェンスは10mくらいということである。教員がいた中でたまたまボールが飛んでいってしまったと考えている。

○委員長

例えば、打っていた場所が不適切なのではないか、事前に口頭で注意をしていれば防げる内容なのか、それとも普通に試合をやっている、いくら注意をしても場外ホームランで当たってしまったのか。最後の場合であれば仕方がないので、フェンスの高さの問題だけれども、先生がいるところで自由勝手に練習をしていて、向きを誤って不適

切なフライか何かが飛んで当たってしまったのなら、フェンスの高さだけの問題にしてはだめだと思う。子どもがふざけて上に打ち上げるようなことを平常にやっていたら上がるわけで、放物線を描いて飛んで行って場外だったら、へいのすぐ外の道路の車にはぶつからないはずだ。事故の内容をきちんとつかんだ上で、賠償しないといけないという問題とは別に、事故の内容をきちんと把握して、指導が適切にできているかという検討も不可欠ではないかと思う。そういう意味では、どういうふうに起きた事故なのかというのを地図なども付して本来は報告していただきたいと思う。これからに向けての要望である。

○教育総務課長

承知した。

○委員長

ほかに意見はあるか。

○藤崎委員

私も同じことを質問しようと思っていた。

○委員長

では、第33号議案について、原案どおり決定してよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

第32号議案について、原案どおり決定する。

○野口委員

本日、本庁舎の1階で食育に関するパネル展示があった。とても良い展示だったと思うが、これについて報告を求める。

○学務課長

例年、教育・保育・衛生といった各面から、食育に関するパネル展を統一的に対応し合同で行っている。食育に関する考え方について区民に周知しながら推進していくことや各ポジションがどのようなことをやっているのかを理解してもらうために、パネル展示をしている。教育委員会では、指導課と学務課が展示している。

○野口委員

こういうことも、どんどん報告するようにお願いしたい。

○委員長

ほかに、意見や質問はあるか。

(「なし」との声あり)

○委員長

では、これで平成22年第10回教育委員会定例会を閉会する。

(午後 2 時 28 分閉会)